

えっ! 今さら 新たな 原発の開発を目指して!?



11月14日経産省内で開かれた非公開の国際会議の席上、同省幹部が「新たな小型原子炉の開発を進め、2040年ころまでに実用化を目指す方針」を示した、との記事が東京新聞に載りました。(12月1日朝刊)

同紙によると、地球温暖化防止の枠組み「パリ」協定の実現のために、原発を活用する方針とのこと。開発目的は天候で変わる太陽光などの不安定な出力をならす必要があり、既存の大型原発より出力調整しやすい小型原発が必要と説明。小型原発については1980年代から各国が様々なタイプを開発していますが、いまだ実用化はされていません。

わが国では原発の運転期間は40年を原則とし、運転延長は例外中の例外、のはずだったものが、今まで電力会社が運転延長を申請した4基すべてが運転延長を認められています。今年7月に政府が見直しを行ったエネルギー基本計画においても従来同様、2030年度現在の発電比率の20~22%を原発でまかなうことになっており、この数字を達成するためには、すべての老朽化した原発を運転延長するだけでは足りず、新たな原発の新增設が不可欠になるのではないかと指摘されていました。エネルギー基本計画の中では新增設について何の説明もありませんでしたが、ここに来て温暖化対策を名目にさらなる原発依存の方針が示されたこととなります。

さらに政府は、1兆円もの税金をつぎ込んで何の役にも立たず、使用済み燃料処理費を含め廃炉にまた1兆円もかかる高速増殖炉もんじゅの後継の高速炉の開発も進めています。

原発は発電時にはCO₂を出しません、人類がいまだ処理することができない「核のごみ」を出し、事故が起きれば長期にわたる深刻な放射能汚染を引き起こします。しかも原発はその建設から廃炉までの期間で考えると再生可能エネルギーよりもずっと多くのCO₂を生み出すのです。

原発はクリーンなエネルギーなどではありません!!

**再生可能エネルギーの発電が不安定だというのなら
蓄電装置の開発や電力を融通し合える送電網の整備などにこそ
国を挙げて取り組むことが必要なのではないでしょうか?**

なお、2018年12月8日から、TBS ラジオはAM電波を送信する「戸田送信所」の電力を100%再生可能エネルギーに切り替えました。情報発信力の大きいこうした組織が再生可能エネルギーへの転換により熱心に取り組んでほしいと思います。



Bye-Bye 原発/国分寺の会

2018年12月